

(一社)北海道測量設計業協会会員アンケート結果概要(2024年7月実施)

■アンケート回答企業 169社(会員総数221社、回答率76.5%)

■企業経営全般や入札・契約、人材確保・育成、働き方改革への対応、インフラDXへの対応などに加え、総合評価の導入や簡易公募型への意見、ドローン測量管理士の現状など、計33問を設定した

■アンケートは2014年度から毎年度実施し、今回で11年目となる

■ポイント

▽技術者年齢のうち、**60歳以上の割合が25.3%**と、過去最高の割合を更新した。20歳代は15.6%と前年度比横ばいだったが、**40歳代は19.4%**と、**過去最低を更新**。中堅技術者の減少が浮き彫りとなった。経営上の課題では「人材不足」と「技術者高齢化」がともに高い水準を示し、**「人材不足」は調査開始以来初めて6割を超えた**。

▽若手人材(40歳未満)確保の現状では**「困難・確保できていない」が前年度の46%から44%に低下**したが、依然として半数近くの企業が人材不足に直面している。「確保できている」は前年度の7%から5%に微減した。

▽若手人材確保が困難な理由としては**「業界の将来性がない」「収入が低い」「業界のイメージが悪い」**がいずれも3割強を占めた。前年度も同様の回答傾向を示していて、若者に対して正確なメッセージを伝えることの必要性が伺える結果となった。**「収入が低い」は前年度の23%から35%に増加**している。確保に向けた対策としてはHP更新や動画発信などの「見える化」と、社員の処遇改善がともに5割を超えた。

▽若手人材の定着については**「良い」「まあ良い」が60%**と、前年度の64%からやや低下した。一方「若手がいない」は前年度とほぼ同じ14%を占めている。定着対策では、人事・労務面で「給与の引き上げ」、技術では「資格取得支援」、心理面では「話しやすい職場環境作り」が上位だった。

▽人材の確保と定着で重要な要素となる**賃上げでは89%が「引き上げた」と回答**。確保と定着、どちらが重要かとの問いに対しては「確保」を選んだ企業が7割に上った。また、就職したばかりの若者の技術取得の場となる**札幌工科専門学校への入学では「入学歴あり」「入学を検討」が全体の約3分の2**を占めている。

▽週休2日については91%が「導入・実施済み」。時間外労働は90%が**「時間外労働はあるが深刻な問題とはなっていない」と回答**している。**時間外労働への対応では、「人材・人員の確保・充実」が66%**となっている。発注平準化など行政側の対応を求める声も63%に上るが、企業の自助努力により対応を講じようとする傾向が伺える。

▽インフラDXへの対応では、**「積極的に対応」が前年度の31%から35%に上昇**した。課題は「技術ノウハウ不足」が40%と最も多く、これに「設備投資費用」「人員不足」が続いている。**BIM/CIMへの対応では「的確な対応が可能」が17%**、「的確な対応が難しい」が8%と、前年度とほぼ同じ割合だった。

▽今回新設した**ドローン測量管理士の現状では、管理士が「いる」との回答は7%**(12社)、「取得準備中」は15%(26社)だった。資格登録を知らない企業は11%にとどまっている。「いる」との回答企業の管理士の人数は17人となっている。

▽災害対応に関しては、「将来含め的確な対応可能」が18%と前年度からやや増加する一方で、**「現在の的確な対応が難しくなりつつある」も含めて半数が的確な対応が困難**と回答している。

▽指名競争から簡易公募型の移行については**「指名競争を中心に」が57%**と前年度とほぼ同じ割合だった。総合評価の導入に関しては「業務内容踏まえて導入を」との回答が45%と最も多かった。入札・契約で行政に望むことは、昨年度と同様**「発注の平準化」と「地元企業重視の入札制度」**が上位だった。

▽協会活動への要望では**「技術講習会開催」が最も多く**、これに**「行政との意見交換会開催」「業界の魅力向上の取り組み」**が続いている。